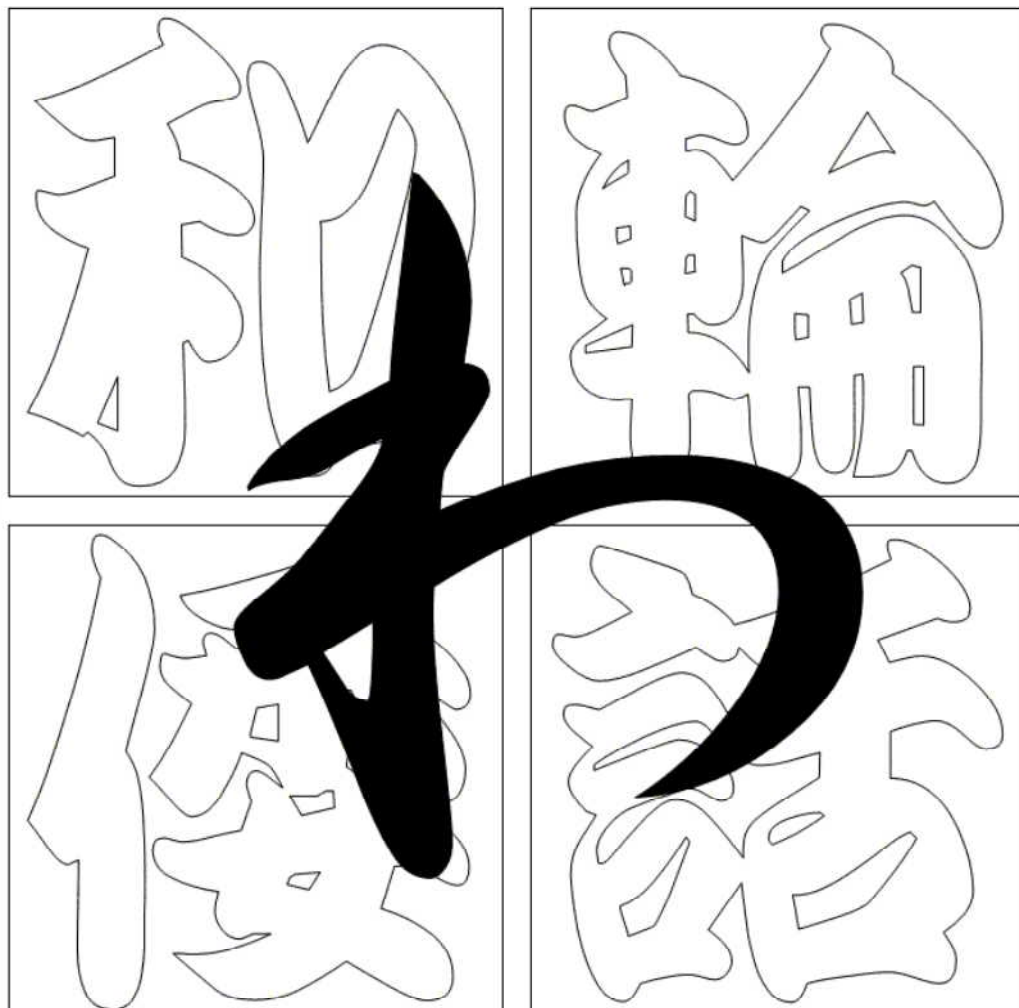


金沢区生涯学習“わ”の会

会 報 第 5 号

(2003年5月)



巻頭言 “わ”の会 創立5周年を迎えて

“わ”の会代表 高橋 好一

山に野に路に庭に、緑美しい初夏の訪れです。“わ”の会会員の皆様にはお元気で、新年度第1回学習会へご参加戴いたこととお慶び申し上げます。

平成10年秋、区役所の公募に応じた10数名で、わが街かなざわの歴史を学ぶグループを“わ”の会と名付け、翌11年度から年7回の学習会(講演と探訪)形式でスタートしました。昨年迄の4年間に28回の学習会を開催し、延べ300名を超す市民の方々が「金沢の歴史」を学んで参りました。

そして今年度は創立5周年を迎える節目の年になります。

昨年度は3年間にわたる区役所の事業委託を終了し、自立初年度でした。自立を機に会員制を導入し毎年継続して学習できるようにし、さらにビジター制採用により、興味ある講座のみの参加も可能にしました。それに伴い会則を制定し、会としての規範を明確にしました。さらに年4回会報を発行し、委員会からの連絡に加えて会員の皆様からの投稿も都度掲載し、情報交換の広場を作りました。加えて分科会創設が大きい企画です。基幹講座である年7回の学習会(講演と探訪)の他に、さらに深く学びたい、基幹講座への採用が難しい、学習成果をまちづくり等の実践的活動に発展させたいという場合に、分科会を設立し活動できるようにしました。会員からのアンケートにより「伊能忠敬研究会」「寺社を巡る会」「古文書を読む会」の3分科会が昨年スタートし、現在30名を超える会員が活動しています。この内「伊能忠敬研究会」には10月学習会で、学習成果を発表して戴くことになりました。以上述べましたように幾つかの新しい仕組みを、自立を機に制定・設立し、この1年一応順調に進行しつつありますが、これも会員各位のご協力ご鞭撻があればこそと、感謝申し上げます。

創立5周年を迎え、今後の“わ”の会の進むべき道は、まさに会則第1条(目的)「金沢の歴史」を学ぶことを軸として豊かな生きがい作りを推進する、に示されています。人それぞれに価値観を持ち、それぞれの生きがいを求めます。多様な価値観・ニーズに対応する会であってこそ、豊かな生きがい作りにかなう会だと考えます。多様なニーズへ対応するために推進したい第一は、毎月の学習会をより一層ニーズに合致した内容にしてゆくことです。どうか学びたいテーマ、ご講演願う講師を提案して下さい。推進したい第二は、分科会の数をさらに増やし、会員の誰もが少なくとも一つの分科会に身を置き、より小人数で同じ考えの人たちと交わり、学ぶことができる環境作りです。どんなことを学びたいか、毎月のアンケートに是非提案をご記入下さい。アンケートは運営委員会にとって情報の宝庫と言えます。そして、最後に運営委員会から皆様へ提案を申し上げます。運営委員や分科会実行委員として、学習会を分科会をあなた自身の頭と手で企画し実行してみませんか。情報交換の広場として会報がありますが、ホームページ創設も計画しています。それらの編集制作をやってみませんか。学習事業企画に活動的に取り組んでみたい

方々には、ふるって運営委員、分科会実行委員になって活躍できる、そういう場を提供申し上げます。“わ”の会は会員全員がアイデアを出し合い学習事業を考え出し実行し、その過程でお互いに達成感を味わい喜び合う、それが可能な学びのグループです。皆様方からのお申し出をお待ちしています。

さあ、今年も楽しく、わがまち金沢の歴史を学びましょう。

講座立上げ裏話

- はらはら、ときどき、それでも痩せない七ヶ月 -

吉田 雅子

田中教授に会ったのは、昨年高校の新年会の事。
日大の現役教授と歓談中に厚かましくも“わ”の会での講座を依頼した。
同窓の誼で快諾を得た。“わ”の会では前々から都市問題が話しに上っていたので8月末の次年度計画で提案した。これが私の苦しみの始まりになるうとは。

何しろ世界を飛び回る先生とは中々連絡が取れない。会として正式な依頼状をお出しせねばと昨年10月に夜を徹して拙い手紙をしたためた。はらはらしつつ待つ一週間、やっと先生からのお電話で5月にお引き受け下さる由。こんな嬉しい事は無い、すぐ高橋代表に連絡。心が軽くなりこれで安眠できるかと思えたが、自分の考えの甘さに、間も無く気付かされた。連絡は全て大学宛ての手紙かFAXに頼るしかなく、先生と直接コンタクトを取る事が出来ない。もし、ご都合が悪くなったらどうしよう。講座が空いたら？等々の恐怖が心をよぎる。意外に小心者の私。当日の時間割り、講座の内容、レジュメ等の交渉も残っている。

新年度のチラシが完成した頃、私は居た堪れぬ心境で3月8日、思い切って最終確認の手紙を投函した。3月10日、たった10分間外出した間に、先生からの留守電が来ていた。教えて頂いた携帯に連絡するも、ああ不通。何故外出したかと地団駄を踏む。30分後にやっと通じた。5ヶ月ぶりの先生の肉声は、まるで懐かしい恋人のように響いた。良かった

こうして平成15年度“わ”の会の一頁が紐とかれようとしている。花の便りを聞き乍ら、言い出しっぺはもうコリゴリと臍をかんでいる。

古人曰く「沈黙は金なり」

故 郷

小俣 悦男

此处、金沢に暮して約30年。
勤め先の日本橋には少し遠い距離ながら、乗換え無しで通勤出来ること、当時年中

行事だった鉄道ストライキ、何故か京急はやらないのが煩わしくなく気に入った。加えて分譲地の販売パンフレットに称名寺と海岸の写真が載っており“素敵”の第一印象を頼りに現地を見ずに飛びついた。人生の半分弱をこの地で暮しているが幾ら長く暮していても、第二の故郷でしかない。生まれた地でもなく、幼馴染みも居ない。地域のこと何も知らない、関心も無かった。只ただ寝に帰ってくるだけの場所に過ぎなかった。(所謂、神奈川県民の典型)

“わ”の会に入って2年。この地で6歳から暮している息子から「小学校の社会科の勉強みたいなことやっているね・・・」と冷やかされ、妻からは「随分歴史が好きなのね」と言われているが、実は家族に本音を言っていない。

近くに住む満2歳の孫は此処金沢が生まれ故郷、海も山もあり、なによりも歴史のあるこの地のことを確り学んで孫に伝えたい。

お前の生まれた所はこんなに良い所だと・・・孫にとってはありがた迷惑かもしれないが、身勝手なことを考えながら「ニソッ」としている今日この頃・・・

古都鎌倉の歴史を紡ぎ名刹に学ぶ

- 寺社を巡る会新会員募集 -

関 祥

「住めば都」というが金沢住民になって早や33年になります。今は自然と歴史が響き合う地域の風光や人情に嵌りこんでいる。

1955年九州から出稼ぎで上京、大田区雪谷に住んでいた先輩通産官僚の下宿に転がり込み、港区神谷町で所帯を持ち、横浜転勤で武蔵小杉へ、そして金沢八景に転居した。

現在“わ”の会の末席に所属し、元セブンイレブン族だった不勉強を恥じつつも、皆さんの指導の下、2002年5月同好の仲間達と分科会「寺社を巡る会」を結成し歴史の宝庫、近在の神社や古刹・先人の墓碑などを巡っています。

5月末で一巡の予定ですが、4月までに研究会と寺社巡礼をそれぞれ9回、9社37寺を巡り、法話を聴き、秘仏・名跡を拝観し、しばし世俗の喧騒から逃れることが出来ました。勿論、道順から折衝打合せ、縁起や次回の案内などを記した会報の起案まで、全員野球の手作りです。

人は誰でもいつか、5年、10年の後先はあっても100%天界に召される。店仕舞い寸前人種の老生だが、同好の諸兄姉に刺激触発され、好奇心益々旺盛で、人生の残光を愉しんでおります。

6月から愈々壮大な歴史と風雪が埋まった古都鎌倉の探訪をスタートさせるべく計画が進行中です。ぜひ皆様も心の羅針盤を求め、古寺巡礼と連れ立って自分捜しの出合いの旅に参加しませんか！人の生活に欠かせない5K(健康・経済・心・家庭・交流)のうち3K(健康・心・交流)は少なくとも満たされる筈です。

ビジター参加も歓迎ですが、只今 10 名程度の新会員を募集中です。
ご希望の方は下記宛にハガキで申込んで下さい。

寺社を巡る会	代表	関	祥	
宛 先	〒236-0027	金沢区瀬戸 5 - 1 - 208	Tel. 782-0759	
期 限	5 月 25 日(日)まで			

称名寺裏山の保全運動

熊谷 哲

昭和 12 年に 13 歳で金沢町に住み始めて 65 年になりますが、地域住民運動が 2 回ありました。文庫小学校設立のお願いと称名寺裏山の保全運動です。後者について書き記しておきます。

昭和 30 年頃に始まった宅地開発の波が北の方から称名寺の裏山一帯に及んで来ます。裏山の金沢山(旧称浅間山、地元では坊主山と愛称)は展望台とし、ロープウェイを架ける。東側の稲荷山と日向山は削って宅地を造成するという。この話が金沢町に聞こえてくる。これでは称名寺の周辺一帯が破壊され、中世の歴史を伝えてきた景観が消えてしまう。町並みも変わり、お寺も平地の中の単なる古寺になってしまう。お寺に直接利害は無くとも、朝な夕なに鐘の音を聞いて静かに暮らしてきた地域住民にとっては衝撃的な話でした。

これは昭和 40 年代前半(?)の話だったと思います。地元金沢や寺前の町内の大勢の人が称名寺赤門の裏に集まり、計画の撤回を求める事で一致し、運動を始めました。金沢町出身の市会議員の宇野忠夫氏(故人)を中心に、古老、地元文化人、学校の先生、医者等の方々、また地元県議の峯尾恭人氏(故人)も大いに協力し、国、県、市に陳情を繰り返しました。この運動は成功裡に終結し、計画は撤回され、称名寺裏山の破壊は免れることが出来ました。

その後、この裏山は、横浜市の努力によって、「称名寺市民の森」として整備(昭和 54 年開園)され、古刹称名寺を囲む背景が緑と共に確保されました。金沢の歴史的・文化的象徴とされる称名寺がしっとりとした雰囲気の中に佇み、後世に伝えることが出来て、大変良かったと今も思っています。

また文庫小学校入口交差点から赤門を経て天使幼稚園に到る道の称名寺側一帯は「第一種低層住宅専用地域」になっており、建物に高さの制限があり、広い意味で称名寺の環境維持に役立っています。

各分科会の平成 15 年度上期行事日程

	寺社を巡る会	古文書を読む会	伊能忠敬研究会
5 月	7 日(水) 10:00 巡拝実施 17 日(土) 13:30 研究会	8 日(木)10:00 壱墨理駕船渡来日記 15 日(木)10:00 野島小柴富岡漁議定書	
6 月	「鎌倉を学ぶ」ﾌﾟﾗﾝｽﾀｰﾄ 12 日(木)10:00 午前 講義 午後 朝比奈を歩く	19 日(木)10:00 古文書未定	4 日(水)10:00 金沢地区での伊能忠敬の足跡を辿って「ウォーク」
7 月	3 日(木)10:00 鎌倉街道 光触寺他を歩く	17 日(木)10:00 古文書未定	学習会(10 月)での発表へ向け、打合せ及び準備
8 月	7 日(木)10:00 鎌倉街道 寿福寺他を歩く	未定	学習会(10 月)での発表へ向け、打合せ及び準備
代表からの一言	欲張りですが、私達は「人生の金メダリスト」を目指しています。あなたの知恵を貸してください	会員の皆さんと共に、温故知新の心積りをもって、“会”を継続していきたいと同時に、楽しくワイガヤの会でありたい	学習会(10 月)での発表をもって一先ず、区切りをつける予定

編集後記	発行日	平成 15 年 5 月 17 日
	発行	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集責任者	小岩 克介 〒236-0005 横市金沢区並木 3-3-2-103 Tel./Fax 045-783-0474

皆様のご協力により、会報第 5 号の発行が出来ました。新年度のスタートにあたり、代表から創立 5 周年を迎える巻頭言を頂き、また多くの方々からの寄稿を厚く感謝します。分科会活動のさらなる充実をめざし、皆様方の参加とご協力を切にお願いする次第です。